

徳川家康の姓氏詐称疑惑について

2023.4 佐藤正喜

仙台藩伊達の米沢時代の重臣である新田景綱の五世孫新田成義が、元禄3年、清和源氏新田氏の出自であるとする徳川家に憚るとして、藩主綱宗から改姓を命じられ、伊達の出自である中村姓を賜った。この上流で起こった、徳川氏の姓氏改竄の過程に興味を抱き調べてみた。

○徳川氏は、清和源氏の流れを汲む新田義重の四男である得川義季に連なると主張して姓氏改竄を行なったのは事実である。家康の清和源氏説は偽装である。

○征夷大將軍として世の中を統べ、平定する為の手段とすれば糾弾すべきものではない。秀吉のようにずる賢くやれば何の非難も起こらなかったのでは。

1. 我々が知る徳川家康の一般的な系図

徳川家康は安祥松平氏9代とされ、三河松平郷にて松平親氏と称した者を祖としている。

親氏¹—泰親²—信光—親忠—長親—信忠—清康—広忠⁸—家康⁹【徳川氏】

家康の祖父清康は、親氏の一代前の得川有親(長阿弥)を徳川の祖としたとされる。

2. 徳川家康が征夷大將軍を名乗るにあたり、源氏の出であることを示すために提出した系図

永禄9年、清和源氏新田氏の出自とした次の系図を出したとされる。

徳川氏の略系図

清和天皇—貞純親王—経基—満仲—頼信—頼義—義家—義国—義重【新田氏】—

—義季【得川氏】—頼氏【世良田氏】—教氏—満義—政義—親季—有親—

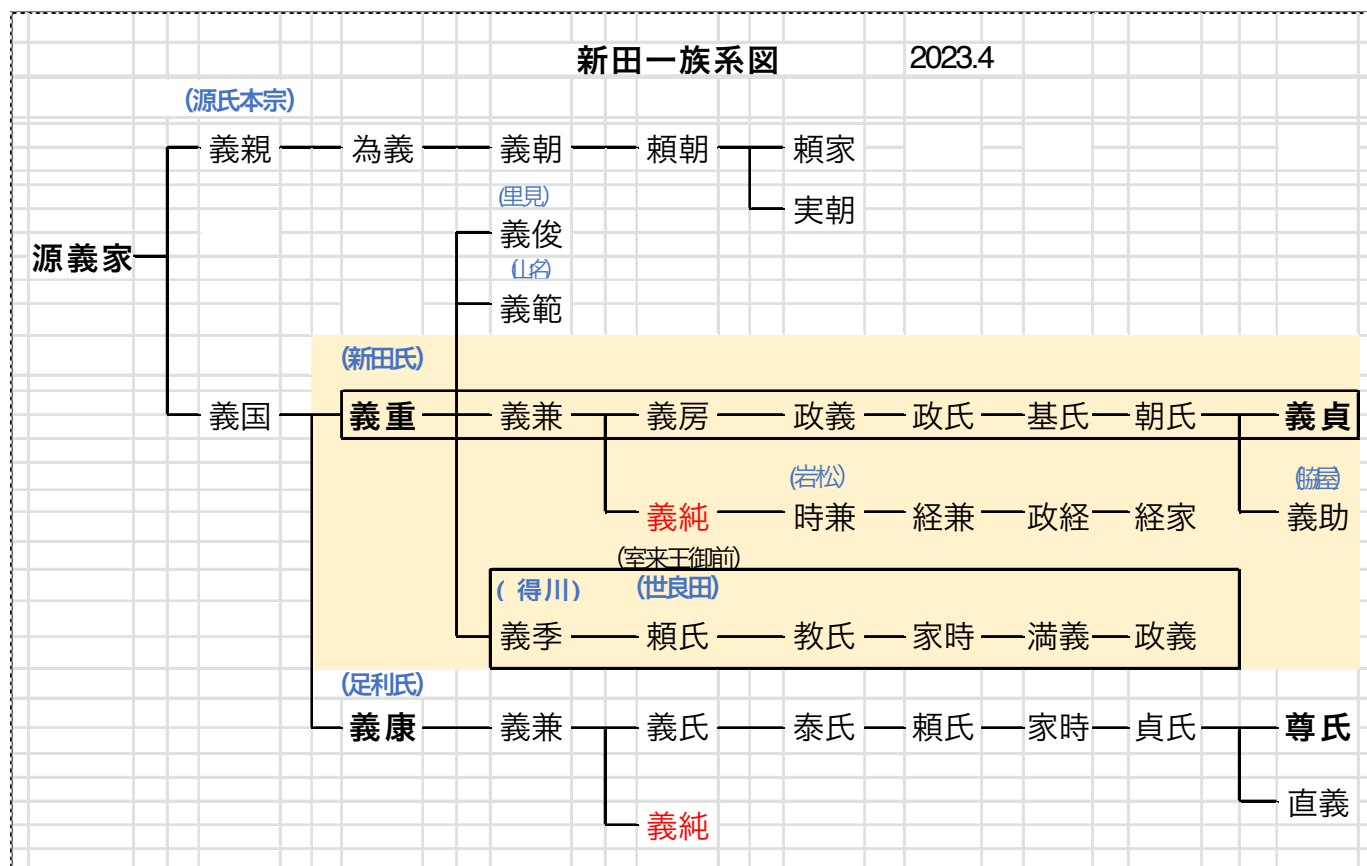
—親氏【松平氏】—泰親—信光—親忠—長親—信忠—清康—広忠—家康【徳川氏】

★尊卑分脈清和源氏の世良田政義の後に親季、有親(親氏の父)をはさみ、4. 項で示す、

親氏が松平郷で興した松平氏を繋げて改竄したものであることが分かる。

この系譜は徳川家康が永禄9年（1566年）に叙任奏請をする際、世良田氏の系譜と自らの系譜をつなげたことが、日本史学者渡辺世祐により論証されている。今日の学界では家康によって粉飾された系譜というのが通説になっている。

3. 清和源氏新田氏、得川氏、世良田氏の関係が分かる系譜（尊卑分脈清和源氏）



○**新田氏**；源義家の三男・義国の嫡男・義重を新田本宗家の初代とする。上野国上野荘(群馬県太田市)を本貫とする。

○**得川氏、世良田氏**；新田義兼の弟・義季が新田荘得川郷(群馬県太田市)に土地を与えられて得川氏を名乗り、その二男・頼氏は開拓した世良田郷を譲られ世良田弥四郎と号し、佐渡で敗死したとされる。この頼氏が**世良田氏の祖**とされる。

江戸幕府は**世良田氏系譜**を公認し、「徳川実記」にも採用している。

世良田氏；頼氏（始祖）—教氏—家時—満義—政義—親季—有親—親氏

しかし乍ら、世良田家の歴代史料、発給書状などから、満義までは裏付けあるが、政義以降は実在したか疑わしいとされる。

★世良田氏は戦国時代に散りぢりになり、瀬良田を名乗った一族もいたという。

徳川の台頭に伴い系図詐称に巻き込まれた受難の一族らしい。

清水昇著『消された一族 清和源氏新田氏支流・世良田氏』に詳しい。

★世良田氏；政義の長男政親の家系

現在32代当主をいただく世良田氏は苦難の歴史の中で生き永らえてきた。

義季は郷名の得川を名乗ったとはいえ、世良田の地頭職として世良田義季を名乗ったことが長楽寺文書によって確証され、世良田氏側は義季を始祖とする。

義季¹—頼氏—教氏—家時—満義—政義—政親⁷(嫡流断絶)=義則—祐義⁹—義親—祐貞—
—祐興—祐親¹³—祐元(宥元)—祐円—・・・・・・—32代当主

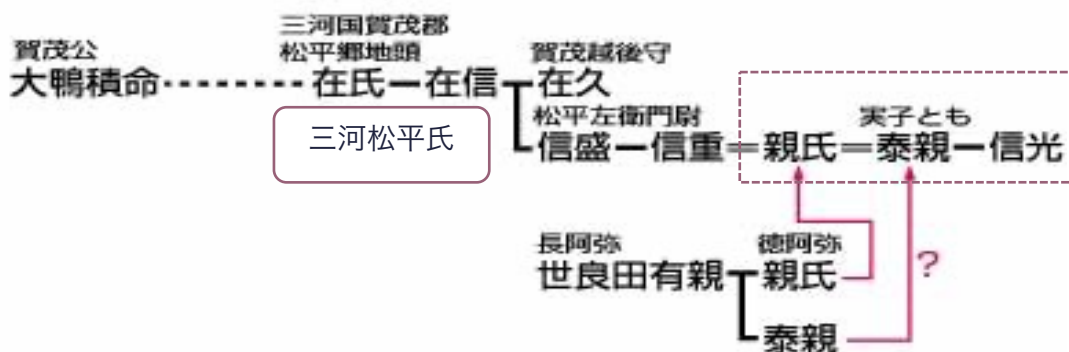
政親の娘の子・脇屋義則（新田義宗を父とする）が世良田の名跡を継いだという。義則の討死の後、子・新田祐義は下野国真船村に住み、南朝武士より在郷武士に傾き真船を号した。武田氏、佐竹氏に仕え、祐親まで真船村に住んだ。14代祐元(宥元)の時、会津赤津村に移住し世良田を号し、伊藤氏に仕えた。その子孫は永く神職に就き、30代が親戚に神職を託し盛岡に移住し、現当主に続いている。現当主は、筆者と同じ位の年令で、おそらく広島県に健在である(全国に同姓同名が一人しかいない)。

4. 徳川の祖とされる松平親氏の父祖の系図

新田一門の世良田有親（父・長阿弥）、親氏（兄・徳阿弥）、泰親（弟）の親子3人は、鎌倉府の追討から奥州に逃れ修行僧となり放浪し、三河国大浜称名寺住持の兄石川孫三郎に従って三河に来た、としている。

『改正三河後風土記』は、親氏が三河の坂井や松平に土着する経緯を述べている。

「世良田二郎三郎親氏が、三河坂井郷の豪族酒井氏の婿となり一子をもうけた。しかし、娘は産後に病死し、親氏は追い出された。その後、親氏は三河国松平村の松平信重に婿として迎えらる。そして松平太郎左衛門親氏と名乗る」とある。これを始祖の松平親氏であるとした（下図）。



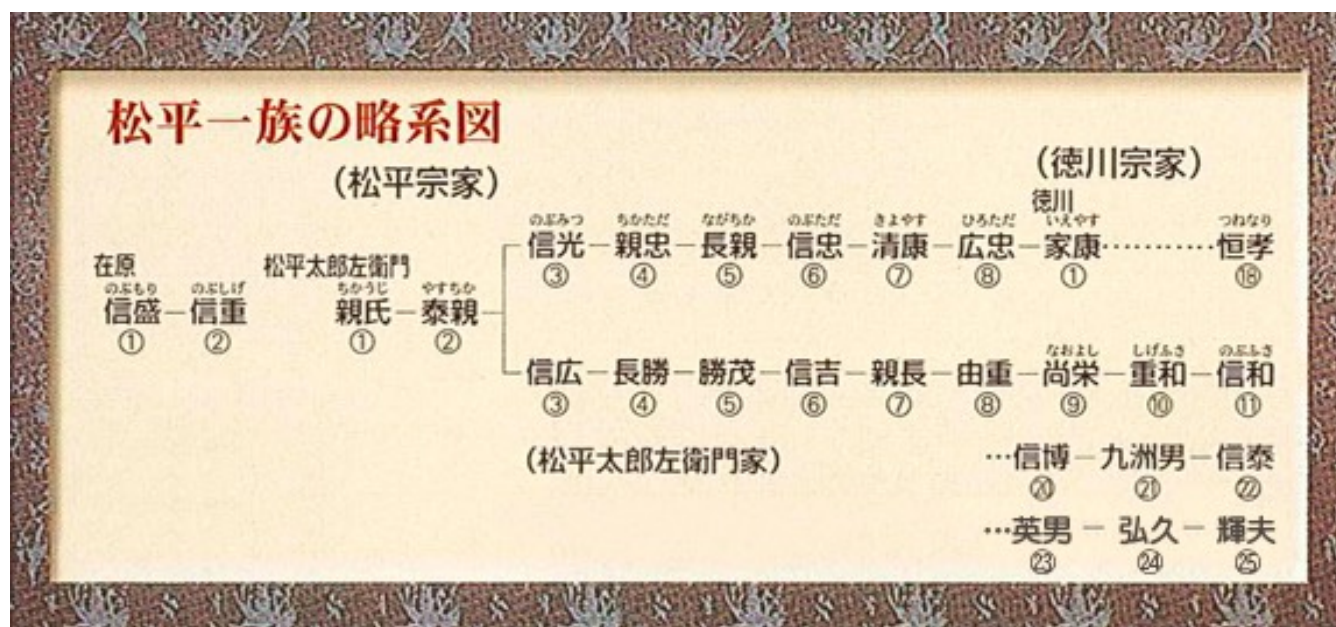
★有親自身は子の親氏と同様に実在したのか、その存在を疑う説もある。同時に有親は時宗の放浪僧ではなく、東国から流れてきた武士が浪人となった身で、松平太郎左衛門少尉信重家を、子とともに乗っ取った説など諸説あり。

★親氏、泰親の出自と事歴は、傍証となる同時代史料は無い。同時代の史料では三代の信光からは史料で確認されるので、松平氏創業の二代の実在は疑わしい。なお信光の生没年は不明ながら、萬松寺や岩津信光明寺建立で名が残る。

5. 松平氏（徳川氏）の系図

松平郷に今も続く松平太郎左衛門家に伝わる「松平一族略系図」があり、松平宗家、徳川宗家の

略系図を見ることができる。松平郷ふるさとづくり委員会事務局 HP（豊田市松平町）より引用。



松平太郎左衛門尉信重に婿養子入りした親氏が「松平家を乗っ取った」と言わんばかりに、信重と親氏を繋いではない。親氏をいわば**新しい松平の始祖**とし、三代のときに徳川宗家と松平太郎左衛門家に分かれたという系図である。

★参考 松平太郎左衛門家（HPにて公表部分から引）

賀茂郡松平郷を領し江戸初期に250石、のち440石の旗本(交代寄合、大名格で参勤交代)に留まり維新まで続き、現在に至る。現当主25代輝夫氏は健在。

6. 家康の「源姓詐称」の経過

天文4年 松平清康 新田一族世良田氏を自称、世良田次郎三郎

弘治元年 松平竹千代は元服し、松平二郎三郎元信。同3年 築山殿を娶り松平元康

永禄6年 元康から家康に改める。同9年 従五位下三河守の叙任を受け松平姓から徳川姓へ。三河守叙任後の家康は、公式文書に藤原家康で署名した文書が残っている。

天正18年 新田一族の岩松守純は家康から新田氏系図を要求され、拒まれたため20石の旗本に。

天正19年 「尊卑分脈」の源氏の部に、家康側近の学僧梵舜が世良田頼氏から家康に至るまでの系譜を書き込む。この頃、上野国得川村は朱印450石、守護不入、諸役御免となる。

慶長16年 新田義重を弔うため新田荘に大光院を創建、18年芝増上寺の呑龍を招き大光院を開山。

このように、家康は自らの系図を清和源氏の新田義重につなぐことに成功したのである。

源姓を名乗りながら公式文書に藤原家康で署名した文書が残っていたというから、家康は「新田は源氏」を知らなかったのかと勘ぐってしまう。当時の成り上がり武士はこの程度のことであったのか。